

平成30年度事業報告

平成30年度に実施した事業の概要は、以下のとおりである。

1. 英霊顕彰事業

国を守るために命を捧げ、今日の日本の平和と繁栄の礎となった戦没者の慰霊・顕彰を行うことにより、戦争の悲惨さと平和の大切さを後世に正しく伝え、日本の平和と世界の恒久平和に貢献するため、次の事業を実施した。

(1) 戦跡慰霊巡拝

ア. 「土佐之塔」慰霊巡拝

沖縄や南方地域で散華された本県出身の英霊1万8千5百余柱が祀られている沖縄「土佐之塔」への慰霊巡拝を高知県地域福祉部長、県議会議長及び遺族の参列を得て、11月17日～19日まで2泊3日の日程で実施した。事業の次世代育成への寄与を目的として、昨年度に引き続き孫・ひ孫の参列者について自己負担を半額として募集し、14名の参加を得ることができた。

【参加人員 41名】

イ. 遺児慰霊友好親善事業等

遺児慰霊友好親善事業では遺族会報や県広報のほか、高知新聞への記事掲載などにより参加者を募った。この結果、遺児9名、配偶者による付添1名が参加した。

(2) 英霊顕彰対策事業

県内市町村や各種団体が執り行う追悼式や慰霊祭等に役員が参列し、追悼の言葉を述べるなど英霊の慰霊・追悼を行った。

【参列 27ヶ所、 追悼電報対応 7ヶ所】

さらに、高知県護国神社や靖国神社の例大祭等に協力し慰霊・追悼を行った。

(3) 団体参拝事業

国が8月15日に実施する全国戦没者追悼式へ参列する公費対象の遺族代表を県から依頼を受けて募集し、県とともに遺族団を引率・参列するとともに、靖国神社や千鳥ヶ淵戦没者墓苑に参拝し戦没者の追悼を行った。

・全国戦没者追悼式参列高知県遺族団

遺族 80名

(子37名 兄弟姉妹2名 孫18名 ひ孫4名 その他19名)

付添職員等 11名

(県職員、遺族会役員等)

2. 広報啓発事業

遺族会報を隔月5,400部発行し、国の援護行政、日本遺族会の動向や県遺族会及び県下各地域の遺族会の活動状況などの情報を提供することにより、英霊顕彰運動や遺族の処遇改善運動への協力と理解をいただくよう努めた。

また、日本遺族会発行の遺族通信を購読するとともに

希望者に配布し（月450部）、英霊顕彰運動等の普及を図った。

3. 遺族福祉向上事業

遺族会は、これまで活動の中心となってきた遺児の高齢化に伴い、遺族会の活動や組織維持についての方向、それに関連しての戦没者遺族の処遇改善、財源の確保など多くの課題を抱えている。

こうした課題解決へ向けて国等へ働きかける運動を行う一方、会員の資質向上及び遺族運動への理解を深めるための研修会を開催するなど、主に次の事業を実施した。

(1) 遺族運動の推進

次の会議にそれぞれ代表を派遣し、遺族の処遇改善等の運動を展開した。

・全国戦没者遺族大会

日本遺族会が12月14日に都内で開催した第74回全国戦没者遺族大会に全国の遺族代表約420人が参集し、英霊顕彰運動の推進や遺族の福祉向上を訴えた。

本県からは、会長・副会長をはじめ4名が参加するとともに、地元選出の自民党所属の国会議員6名に対して、総理・閣僚の靖国神社参拝の定着、特別弔慰金の支給要件の見直しなど戦没者遺族に対する処遇の改善などの陳情を行った。

【全国戦没者遺族大会】

自由民主会館420名参加（本県4名）

・日本遺族会中国・四国ブロック遺族会会議

30年度は香川県が当番県として10月4日と5日の両日、高松市内で開催され、日本遺族会及び中・四国9県が参加した。

会議では日本遺族会からの中央情勢についての報告の後、各県提出議題の検討が行われ、県をはじめとする行政との連携状況や後継者育成問題などについて議論が交わされた。

【50名参加 本県4名】

(2) 老人福祉事業

100歳を迎えた戦没者の妻を表彰し、これまでのご労苦に感謝した。

【表彰者 100歳 15名】

(3) 女性部事業

日本遺族会が行う青年部との合同研修会への参加や壮年部との合同研修会を開催するなど女性部指導者としての資質向上に努めた。

本年の壮年部との合同研修会は、12月4日高知県県民文化ホール会議室において座学研修で実施した。当日は、事務局から公益財団法人制度や公益法人の活動状況の説明を行った後、県遺族会が直面する課題についての検討協議を行った。その結果、引き続き特別委員会を設置し、これからの県遺族会の組織や事業の運営のあり方について検討を進めることとなった。

(4) 壮年部事業

戦後70年余が経過し、遺族会を実質的に担うのは遺児の世代になって久しい。遺族会が置かれている厳しい現状を認識し、今後とも英霊顕彰、遺族福祉の向上などの遺族運動を推進していくために、女性部と合同で、(3)のとおり研修を実施した。

(5) 青年部事業

遺族会への理解を進めるため、平成30年7月15日に青年部24名が参加し、第3回研修会を開催した。研修では、桑名龍吾県議を講師に忠霊塔を巡る諸課題について講演と意見交換を行った。

引き続き、後継者組織となる「青年部」の結成式を、平成30年9月9日に高知県遺族会創立70周年記念遺族大会と合わせて開催した。当日は県内各地から青年部員32名の参加があった。

また、2月20日には青年部員24名が参加し、第1回総会を開催し、青年部規約の決定、青年部役員を選任等を行い、「公益財団法人高知県遺族会青年部（次世代の会）」として正式発足することとなった。

【第3回青年部研修会 青年部24名 理事8名】

【青年部結成式 青年部32名】

【青年部総会 青年部24名 理事12名】

このように、孫・ひ孫を中心とした若い世代からの新たな組織が青年部として発足することで、県遺族会に新たな地平が広がった年度となった。

(6) 遺族大会

県民挙げて、平和を祈念し英霊顕彰に取り組んでいくことを目的に、遺族運動の現状や課題等について議論し情報の共有化を図るため、高知県戦没者遺族大会を開催した。

30年度の大会は、昭和23年に日本遺族厚生連盟高知県本部として本会が発足以来、70年の節目の年に当たるため、若い世代で組織する青年部結成式と合わせ、9月9日にドリーマーベイシャトーで、下記のとおり開催した。

- ・参加者 320名
- ・公演 土佐女子中学高等学校コーラス部合唱
「故郷ほか4曲」
指揮 西本佳奈子先生
- ・知事表彰 戦没者の妻表彰 147名
援護事業功労者 14名